



*special prayer focus*

## ペサハ (過ぎ越しの祭り)

### 「出エジプト記」2章

■早春の過ぎ越しの祭りは、聖書のユダヤ暦における最初の休日であり、神がエジプトにおける苦役からイスラエルの民を救い出したことを祝うものである。聖書の中では、傷のない1歳の小羊が家族ごとに選ばれ、エルサレムに連れられ、聖なる日の前日に(つまりニサンの月の14日に)ほふられる。そして日没の後、この小羊を苦菜といっしょに食べる。これは、神がエジプトでイスラエルの民に命じられたことを記念するためである。エジプトにいた時、神はイスラエルの民に同じような小羊を取り、それをほふり、その血をかもいと二本の門柱に塗り付けるように仰せられた。そして、イスラエルを支配する、かたくななエジプト人への最後の災いとして、死をもたらす御使いが、エジプト人の初子を殺すためにやって来た時、それらの血を見て、イスラエル人の家を過ぎ越したのである。次の日から(つまりニサンの月の15日から)ユダヤ人は七日間、種を入れないパンを食べる。これは、エジプトの初子が打たれた後、イスラエルが神に急いでエジプトから出るように命じられたため、パン種がパン生地を発酵させるまで待てなかったことを記念する。

■現在、過ぎ越しの祭りは、最も人気のあるユダヤ人の祭りであるが、今日の執り行いはずいぶん変化したものとなった。現在の祭りと結び付く伝統は、第二神殿の崩壊直後に当たる、西暦80~90年から始まったものである。一般に、過ぎ越しの前日にユダヤ人は家族や親友を集め、家ごとに何時間もかかる、礼拝と食事を組み合わせたものを行う。これを「セデル」と呼ぶ。セデルでは、「ハガダー(「話」という意味)」という本が用意され、集まった会衆は、これを使って各種の祈りや聖書などの朗読を行いながら、特別な意味をもったさまざまな食べ物をいただくのである。これらの儀式と食事はすべて、最初の過ぎ越しの夜に神がなされたことを思い出させるのが目的である。ユダヤの伝統によると、毎年過ぎ越しの祭りを祝うたびに、最初の過ぎ越しを再び経験することになるという。聖書は、エルサレムの神殿で小羊をほふらなければならないと命じているが、もう神殿がないため、小羊はほふられない。したがって、ユダヤ人の家で過ぎ越しに小羊を食べることは、実際には、ほとんどないのである。その代わりに、聖書の中のほふられた小羊を思い出すために、小羊のすねの骨が用意され、ほかの特別な食べ物といっしょに過ぎ越し用の皿に並べられる。セデル以降の八日間、ユダヤ人はパン種の入ったものを口にしない。またそれらには、ご飯、豆類といった、調理することによってふくらむ食物も含まれる。聖書では、過ぎ越しの祭りとパン種を入れない祭りとは異なる祭りであるが、現在では、まとめて八日間の過ぎ越しの祭りとして祝う。

■過ぎ越しの祭りは、明らかに、主イエスの死と復活と深く関係している。主イエスのエルサレム入城は、

過ぎ越しの祭りの準備期間と重なっていた。弟子たちとの最後の晩餐は、過ぎ越しの祭りのセデルであった。この晩餐の最後に、主イエスは種を入れないパンを一片取り、間もなく死を迎える自分の体とこれを関連付けている。このパンは、割られ、隠され、そして再び探し出される、過ぎ越し祭の儀式のパンと同じである。そして、主イエスご自身が、これらの儀式と同じ経緯をたどるのである。主イエスは食事に出てくる「あがないの杯」を取って、多くの罪人をあがなうために間もなく流れる、ご自分の血と結び付けている。主イエスは、小羊がエルサレムでほふられる日に亡くなられ、そして、三日後の「初穂の祭り」(ビツクリム)の時によみがえられたのである。今はもう、ユダヤ人の間では、このビツクリムを祝うことは、ほとんどなくなっている。

■ユダヤ人たちによって伝統的に祝われる過ぎ越しのセデルは、主イエスをあまりにも明確に見いだすことができるので、多くのクリスチャンやメシアニック・ジューは、その関連性を皆に見せるために、公開セデルを行っている。

---

### 祈りの課題

☆この一週間、過ぎ越しのセデルを祝うユダヤ人が、イエスこそ、彼らの過ぎ越しの小羊だと分かるように。

☆伝統的なユダヤ人がメシアニック・ジューやクリスチャン開催のセデルに招かれ、そこでイエスこそメシアである、という福音を聞くことができるように。

☆クリスチャンがユダヤ人の友達のセデルに参加するために、ユダヤ人の家庭を訪ねることができるように。

☆ユダヤ人が過ぎ越しの祭りを祝いながら、神への飢え渴きがますます高まるように。

☆神がユダヤ人の初子を打たれなかったこと、そして奴隷の苦役から救い出されたことを思い出しながら、ユダヤ人たちが主への感謝を捧げることができるように。

☆ユダヤ人が過ぎ越しを語る時、なぜ神が自分たちを一つの民族にしたかを考えるように。そして、主のご計画を成し遂げる決心がつくように。